



お客様とともに

竹田 i P グループは、竹田 i P ホールディングスの前身にあたる竹田印刷の創業以来、一貫して真心込めたきめ細かいサービスを信条としており、誠実を尊ぶ文化があります。

グループ全体が心ある誠実な企業風土を持ち、常にお客様に寄り添うサービスを提供し続けたいと考えています。

お客様のパートナー企業をめざして

17.17

竹田印刷 (株)

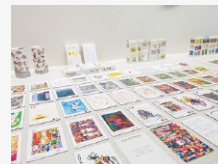
2022年11月16日～18日に、ポートメッセなごやにてメッセナゴヤ2022が開催されました。竹田印刷はダイバーシティ&インクルージョンを推進していることから、障がい者アートを展示のメインに据え、アート作品を活用した製品や自治体・公共施設との地域連携プロジェクトなどに関する取り組みを紹介しました。



Topic

障がい者アート作品を活用したトランプを製作

「1つの製品により多くのアート作品を活用できないか?」という考えをきっかけに誕生したものです。愛知県・石川県にある社会福祉施設の利用者様30名の作品を用いて、小ロットで多種印刷できるオンデマンド印刷機の特性を活かし、竹田印刷オリジナルのトランプを製作しました。

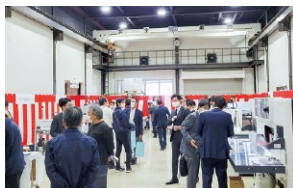


(株)光文堂

2023年1月25日・26日に、第59回新春機材展がポートメッセなごやにて開催されました。今回は「VALUE & INNOVATION きらり」がテーマ。“新たな価値を生み出し変革を続けていこう”という意志を持ち、一人ひとりが「きらり」と光る存在になろうという意味が込められています。光文堂のブースでは、紙面に掲載された二次元バーコードを自動でチェックできるソフトウェア[KBD QRエビデンサー]など、時代を見据えた最新鋭システムが展示されました。



2022年10月7日・8日に、第45回最新製本省力化機材展が光文堂のテクニカルステーションにて開催されました。不透明な時代を先読みして進むための“製本×DX=省力化”に繋がるシステムが、数多く提案されました。製本業者様向けのポストプレス(印刷後の加工から納品までの工程)に関する出展が多いですが、オンデマンド印刷機などの展示や中古機業者様の出展もあり、大盛況となりました。



竹田東京プロセスサービス (株)

2022年11月30日～12月2日に開催されたネプコンジャパンオンラインに出展しました。竹田東京プロセスサービスとプロセス・ラボ・ミクロンにて取り扱う全商品の資料を掲載し、半導体関連マスク製品のPRを行いました。新商材としては、接着剤印刷用マスクや、ザグリ加工などのフォトマスクへの表面加工方法について紹介を行い、さまざまなお客様に当社グループの取り組みを知っていただくことができました。

(株)プロセス・ラボ・ミクロン

電子機器や自動車を製造する上で欠かすことができない、電子部品実装技術の総合展示会であるJISSO PROTEC(第24回実装プロセステクノロジー展)が2023年5月31日～6月2日に開催され、実装関連分野として出展しました。今回は主要製品であるメタルマスクを展示しました。4年ぶりの現地開催ということで、お客様に幅広く知っていただくことをテーマとし、定番商品から新商品まで幅広く展開しました。中国からいらっしやったお客様にもブースに足を運んでいただき、商品を知っていただくことができました。



ISO9001認証取得

12.5

| | | | | |
|--------|----------------------------|------------|-----------------|-----------------|
| | 竹田印刷(株) 竹田iPホールディングス(株) | 日栄印刷紙工(株) | 竹田東京プロセスサービス(株) | (株)プロセス・ラボ・ミクロン |
| 認証取得日 | 1999年11月15日 | 2015年11月2日 | 1999年12月1日 | 2000年6月26日 |
| 認証登録番号 | 07965-A | | 12915-A | 09146 |

品質に関する基本的な考え方

12.5

竹田印刷ではISOの3つの規格9001(品質)、14001(環境)、27001(情報セキュリティ)およびJIS Q15001(個人情報保護)のマネジメントシステムを統括して、TMS(竹田マネジメントシステム)として運用しています。品質に関しては、ISO9001に基づいて品質保証体制を整備し、品質管理に万全を期しています。さらに、品質の向上を図るため継続的な改善を行い、常に信頼される製品を提供することにより、お客様の繁栄に貢献したいと考えています。



品質不適合発生時の対応

品質不適合発生の際には「不適合及び緊急事態対応管理規定」に基づき①事実調査 ②原因の究明 ③影響範囲の特定 ④お客様への報告を行います。そして「是正処置規定」に基づき、不適合の再発防止や原因を除去するための是正処置を行い、または是正処置の実施状況を3ヶ月後にフォローアップすることで、効果の確認をしています。

品質教育・品質会議

竹田印刷では、新入社員を対象にした基礎的な品質教育をはじめ、TMS(竹田マネジメントシステム)の年間教育計画に基づいた品質教育を行っています。また、QCサークル活動を通じた品質意識の向上や品質教育を継続することで、品質第一の風土の構築と維持に努めています。

経営者が参加している品質会議では、品質トラブルの事例を全社に展開し、組織全体の品質意識の向上につなげると共に、過去の不具合事例をデータベース化して再発防止に活用しています。



品質向上への取り組み

9.4 12.5

竹田印刷(株) ～ロジスティクス部門～

受発注および倉庫管理システム

お客様の商品や販促物のロジスティクスを受託する際に利用する受発注管理システム「TS-BASE 受発注」を自社開発しています。受発注や出荷指示、倉庫内の各種業務の生産性と安定性を向上させています。OCR機能付きのハンディターミナルを用いてセキュアな案件にも対応しています。

コールセンターシステム(CTI)

スポット的な事務局需要にも柔軟に対応でき、お客様が通話を待っている待ち呼や切断された放棄呼のデータ収集や通話録音により、対応品質改善につなげています。

また東京本部・日本橋にも同様のシステムを導入し、かつ連携することでさらに柔軟な対応が可能となりました。

竹田東京プロセスサービス(株)

印刷実験を実施

スクリーンマスクは基本的にオーダーメイドとなるため、お客様の要望に応えるための新商品開発を常に行っています。北陸センターにある技術棟には印刷室と実験室があり、印刷の再現性について可能性を探るなど、お客様と試行錯誤しながら、月に2〜3件ほど様々な試作品の作製や実験が行われています。

QC工程表を用いた品質管理

半導体関連マスク製品は、電子部品の一部として使用されるため高い精度が求められます。そのため全数検査により不良品・異常品を取り除き、品質保証に努めています。またQC工程表を作成し、工程に問題が発生した際には改善を行い、一定の品質基準を保つようにしています。



北陸センター 技術棟

印刷実験室

例：フォトマスク 作製工程(概略)



日栄印刷紙工(株)

厳しい品質チェックを実施

日栄印刷紙工では、多様化する顧客ニーズと厳しい品質基準に対応した化粧箱などのパッケージ、各種表示ラベルなどを製造・販売しています。製品によって全数検査を行っており、プランクス検査機を使用し、内容によって“ハード/メディアム/ノーマル/イージー”等の検査モードを使い分けながら検査を実施しています。医薬品や化粧品のパッケージは特に厳しく検査をしており、バーコードが読み込めるかどうか、成分がきちんと読めるかどうかなど、限定箇所を厳しく検査しています。



同じ紙面の中で検査モードを使い分けことができ、また不良の内容や大きさがわかるようになっています。(検査条件は、お客様が希望される品質により異なります)

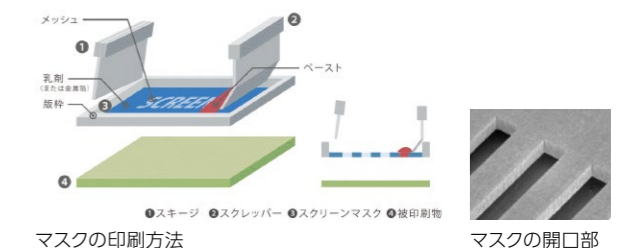
(株)プロセス・ラボ・ミクロン

ISO対象製品を開発

プロセス・ラボ・ミクロンでは、品質向上に向けて様々なISO対象製品を開発しています。

HGP™メタルマスクの開発

電子回路基板にはんだペーストを印刷するため、メタルマスクを設置しペーストを流し込む際、マスクの開口部(すきま)からペーストが裏回りしないようにするために、開口部のへりの鋭角度をシャープにした製品です。電子回路基板に連続印刷する際に、ペーストの滲み出し防止に強い効果を発揮します。



SHG™メタルマスクの開発

マスク開口部の壁面を平滑化、また開口部のへりの鋭角度をシャープにすることで、マスクを引き上げた際にペーストが開口部壁面に残ることを防ぎ、かつペーストが裏回りしないようにすることで、連続印刷時の仕上がりにばらつきが出ないようにした製品です。

